

審 議 結 果

審議会等名称：第126回神奈川県総合計画審議会

開催日時：平成31年2月7日（木）15：00～16：30

開催場所：神奈川県庁新庁舎8階 議会大会議室

出席者：◎清家篤、○牛山久仁彦、○斎藤聖美、内田裕久、金子勝、小林隆、清水みゆき、関ふ佐子、渡辺真理、柏木教一、篠原正治、大崎厚郎、丸山善弘、平田美智子、加藤憲一、湯川裕司、いとう康宏、神倉寛明、京島けいこ、楠梨恵子、田中信次、谷口かずふみ〔計22名〕（順不同）
（◎会長、○副会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 田中

電話番号045-210-3064（直通） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）：（事務局が委員数30名に対し、この時点で22名の出席を確認し、半数を超えるため審議会が成立する旨を発言）

1 開会

- 清家会長：ただいまから第126回神奈川県総合計画審議会を開会いたします。
議事に入ります前に、今年度、この審議会に初めて出席される委員のご紹介をさせていただきます。

（委員の紹介）

2 議事

議題1 「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」について

- 清家会長：本日の議題は「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」についてです。「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（素案）」につきましては、前回の当審議会におきまして、非常に熱心な議論をいただきました。その後、事務局でご議論を踏まえた修正を行った上で、県民の皆様や市町村等からも広くご意見をいただき、それらのご意見を踏まえて「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」を作成しましたので、最終案のとりまとめに向けてご審議をお願いいたします。この点検報告書（案）につきましては、先月下旬に計画推進評価部会でご議論をいただいております。審議に先立ち、まず事務局から資料の説明をしていただきます。その後、牛山部会長から部会での検討結果について報告していただきます。池田課長、よろしくお願いします。

（事務局から資料の説明）

- 清家会長：ありがとうございました。引き続き、部会での検討結果について、牛山部会長、よろしくお願いします。
- 牛山部会長：それでは、部会で行われた議論につきまして、私からご報告をさせていただきます。部会では、新たに加えた「まとめ」のページに対して、多くのご意見をいただきました。まとめページは31ページ、160から161ページがありますが、160ページをお開きください。まず、まとめ（点検結果）ページ

の全体にかかるお話ですが、まとめページだけを読んでも分かるよう、記載方法を工夫する必要がある、というご意見がありました。そこで、まず「(1) プロジェクトの点検結果」について「一定の成果」があったと記載していた箇所には具体的な事例を追記し、記載内容を充実させることにしました。具体的には、「身近な場所で未病改善に取り組める環境づくり(プロジェクト1 未病)」、「セレクト神奈川100」等による企業誘致(プロジェクト6 産業創出)、シェイクアウト訓練参加者の拡大(プロジェクト11 減災)、地域限定保育士試験の実施などによる子育て環境の充実(プロジェクト14 子ども・青少年)、「にぎわい」創出の核となる「未病バレー『BIOTOPIA』(ビオトピア)」のオープンなどによる県西・三浦半島地域の活性化(プロジェクト18 地域活性化)など、すべてのプロジェクトにおいて一定の成果が見られました。」という記述をすることといたしました。また、「SDGsを座標軸とした検証」として、SDGsを座標軸に照らすことで、新たな課題の検証をしながら政策を進めるといった視点を記載する必要があるというご意見がありました。このことは155ページの本文には記載されていますが、まとめページには示されていなかったため、この項目に「今後も、SDGsを座標軸に県として更に取り組むべき課題を検討し、政策を進化させていく必要があります。」という記述を追記することとしました。こうした追記を行いました。一方でまとめページに盛り込み過ぎると、まとめページの意味がなくなってしまうので、その他の主な項目には原則参照するページを記載することとしました。次に161ページをご覧ください。まず、「今後の政策推進に当たって留意すべき事項」というタイトルについてですが、部会での議論の時点では「留意事項」というタイトルになっていました。「留意事項」というタイトルは何に対する留意事項なのか分かりにくい、というご意見がありましたので、「今後の政策推進に当たって留意すべき事項」と修正しました。「今後の政策推進に当たって留意すべき事項」の項目の中段、2ポツ目についてですが、「『持続可能な行政サービス』の趣旨が分かりづらいので説明を補う必要がある」、というご意見や「各市町村のベストプラクティスを共有することが大事であり、そのような観点を記載する必要がある」というご意見がありました。そこで、持続可能な行政サービスに向けた具体的な取組内容を追記するとともに、各自治体が持つ効果的な取組を県、市町村間で情報共有を行うという趣旨を追記しました。また、同項目の3ポツ目についてですが、「県民、NPO、企業、大学など多様な担い手が連携」ということについて、これまでの取組と異なる点を明確にする必要があるというご意見がありました。そこで、「より一層連携を強化して地域課題の解決について取り組む」、「県が旗振り役となってめざすべき方向性を共有する」などの文言を追加することとしました。4ポツ目についてですが、「『クロス』の視点を取り入れた施策についてイメージが分からないので、もう少し具体的に記載する必要がある」というご意見がありました。そこで、「『観光』と『文化』、『農業』と『福祉』など異なる分野同士の掛け合わせによる取組」などの具体的な分野の例を記載することとしました。「神奈川の戦略」の「ヘルスケア・ニューフロンティアの推進」の項目についてのご意見でございます。131ページをご覧ください。WHO(世界保健機関)が推進している「エイジフレンドリーシティ」について、神奈川の市町村では積極的に進められているため、その取組について記載する必要があるというご意見がありました。そこで、6マル目に「世界保健機関(WHO)への職員派遣及び高齢者に優しい地域づくりに向けた自治体の国際的なネットワーク『エイジフレンドリーシティ』の取組を進めました。」と記載することとしました。なお、関連するプロジェクト7「海外展開」の「主な取組と成果」にも、同様に「エイジフレンドリーシティ」の取組について記載することとしました。私からの報告は以上です。よろしくご審議のほどお願いいたします。

- **清家会長**：ありがとうございました。それでは、ただいまの報告を踏まえて審議に入りたいと思います。出来るだけ多くの方のご意見をいただきたいと思いますので、恐縮ですが、簡潔なご発言をお願いいたします。それでは、ご発言のある方は挙手、あるいはネームプレートを立ててくだされば分かりますので、お願いします。では、斎藤副会長よろしく申し上げます。
- **斎藤副会長**：ご報告いただきましてありがとうございました。125件の県民意見のフィードバックがあ

ったということをどう見るのかということですが、私はかなり大きい数字ではないかと思いました。この125件の内訳を教えてくださいたいのですが、手紙、メール、ファックスと書いてありますが、どういう内訳でフィードバックが届いたのでしょうか。やはり若い人たちはメールもあまり使わなくなってSNSを使って発信する、あるいは意見を言うということが増えていると思うのですが、そのような対応になっているのかどうか、あるいは年配の方が多くお手紙が多くなっているのか、そのあたりの実情を教えてください。

- 清家会長：事務局からお答えいただきます。
- 池田総合政策課長：件数でお答えしますが、メールが16件、手紙22件、アンケートが87件ほどございます。アンケートは大学の方へ出向いて、学生さんへご協力いただいてアンケートを取らせていただいたものです。以上でございます。
- 清家会長：ありがとうございます。斎藤副会長よろしいでしょうか。
- 斎藤副会長：アンケートが非常に多いと思いました。お手紙が22件ということで、これはおそらく高齢の方ですよね。もう少し若い人からフィードバックがくるような工夫がこれから必要になると思いますのでSNSなどに対する働きかけなどをぜひお願いしたいと思います。
- 清家会長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。清水委員お願いします。
- 清水委員：県民の方からの一番はじめのご意見に「食品ロス」の話が出ていて、いっそう3Rの促進を図るという記述で対応をされたようですが、いまだどちらかという例えば流通業界の3分の1ルールとか、出てしまったものをどうしようというよりも「出さない」という方向へ議論がシフトしているように思われるので、出てしまったものをどうしようということ以外にも「出さない」工夫を県としても考えていって欲しいと思います。
- 清家会長：ありがとうございます。この件については、ご要望ということでよろしいでしょうか。
- 清水委員：はい。
- 清家会長：では、金子委員、どうぞ。
- 金子委員：報告書案の103ページに「障がい者の雇用率」が記載されています。県の教育委員会などの水増し問題がありましたが、それが含まれている数値なのでしょうか。数値目標に民間企業の雇用率を掲げておいて、県自らの雇用率が達成できていないというのは格好がつかないので、総合計画に載せなくても良いのですが、何らかの言い訳があって然るべきではないでしょうか。
- 清家会長：事務局からお答えいただけますか。
- 池田総合政策課長：ご指摘の障がい者雇用率ですが、この数値目標は民間事業所の雇用率となっております。また、104ページの「プロジェクトを取り巻く状況」の「就業支援」の欄に、「中央省庁や地方自治体等の多くの機関において、障がい者雇用率の算出にあたり不適切な取り扱いがなされたことを受け、障がい者雇用の取組みの適切な実施が求められています」と記載させていただいております。

- **金子委員**：自分で自分に向かって「適切な実施が求められています」というのは、日本語的にはおかしいので、こういう取組みをいたしますとか、もう少し前向きな表現があった方がよろしいのではないかと思います。第三者的な表現なのが気になります。
- **清家会長**：これは、報告書を書いている主体が県なのか、当審議会なのかということでしょう。当審議会であるなら、この記述でも構わない訳ですが、県が主体であれば、金子委員がおっしゃったようなことはあるかもしれません。
- **中谷政策部長**：表紙にも神奈川県と記載しておりますとおり、報告書の策定主体は県でございます。策定にあたり、第三者の有識者からご意見をいただくために当審議会が開かれている訳ですが、ご指摘をいただきました表現につきましては、検討させていただきたいと思っております。
- **清家会長**：はい。では、他にはいかがでしょうか。渡辺委員どうぞ。
- **渡辺委員**：先ほど牛山副会長のご説明にもありました161ページの各市町村との連携につきまして、一人の神奈川県民、横浜市民、中区民としての実感を申し上げます。報告書への記載をお願いしたいという趣旨ではなく、報告書策定主体の県に対してのリクエストであり、エールであると捉えていただければ幸いです。平成の世が幕をおろそうとしている今、まさに時代の大きな曲がり角を体感している感がございます。人口構造の変化や高齢化社会の進行などこれまでにない社会の行く先を見ても、県や市の役割、区のサービスといった棲み分け、また協力体制がいつの時代よりも不可欠なものと感じられます。住む者としては、県と市、区、町内という和音の中で、過不足なく安心・安全な暮らしを営みたい、そう願っています。時代の変化の中で住民の要望に応えるためにも、また結果として県のプレゼンスを上げるためにも、廃藩置県で設置された県が150年以上経た現在の役割とは、翻って県とは何かなど根本に立ち戻った観点を念頭に置きながら、県の存在意義を再確認していただく時ではないかと感じています。卑近な例になりますが、テレビの世界でも配信とどのように棲み分けていくのか、テレビに出来ることとは、テレビとはと問う毎日ですが、この問いに向き合うことがこれからの一步を築くことになると思っております。長くなりましたが、重ねて記載をお願いしたいことではなく、県民として日ごろの感謝を込めてのエールと受け取っていただければ幸いです。ありがとうございました。
- **清家会長**：ありがとうございます。それはご意見ということでよろしいですね。他にご意見、ご質問ございますか。それでは関委員どうぞ。
- **関委員**：先ほどの意見とも関連していますが、評価部会の時にも少し指摘をさせていただきましたが、160ページから161ページに記載について、読みやすくなったと思っております。「必要があります」という形で文章が終わっていますが、県が書いている文章で「必要があります」という終わり方でよいのか少し違和感がある気がしています。第三者が「必要であります」というのであればわかりやすいのですが、自分自身が行っていることについて、このような表現は少し気になります。あと細かい点ですが、160ページの「環境」、「未病」などの前に「PJ」と書いてありますが、「PJ」が「プロジェクト」の略ということがわかりにくいので、23のプロジェクトのところに「PJ」を記載すると良いかと思っております。
- **清家会長**：ありがとうございます。「PJ」の表記は工夫していただくこととして、前半部分は先ほどの金子委員のご意見とも重なると思っておりますが、ここはどうですか。
- **池田総合政策課長**：部会の方でも「必要があります」という表現についてご意見をいただきました。先ほどの金子委員の意見と重なるところがございますが、今回は点検報告書ということでございますので、

部会からご意見いただいた点について、160ページ、31ページもそうですが、最初のところに「これまで『第2期実施計画』の点検を行ってきたところ、次のことが確認できました。」という文章を記載させていただきました。点検した結果、このようなことが確認できましたので、「必要があります」ということでまとめさせていただいたところでございます。新しい計画を策定する段階になりましたら、ここについては「やっていきます」、「取り組みます」ということが記載できますが、基本的には、あくまでこれまでの4年間の結果を書かせていただいている部分でございますので、この部分、点検結果のまとめとしては、こういったことが確認できて、こういったことが県としても必要になってくるという認識を示させていただいております。それぞれのプロジェクトにつきましては、例えばプロジェクト1の未病をご覧くださいと、37ページにも「今後に向けた検討事項」という項目がございます、ここでも、「必要があります」という書き方をさせていただいているところでございます。繰り返しとなりますが、あくまでも点検報告書ということで、点検した結果、こういったことを認識して、政策を推進していくに当たってこのようなことが必要であるという書き方となっております。他人事のような表現であるとお感じられる場合もあるかと思いますが、点検報告書という事で、書体としては一律にこのような書き方をさせていただいております。そういったことで、ご理解いただければと思います。

- **関委員**：少し回りくどい表現かもしれませんが、「必要性が見えてきました」などのほうが、「確認できました」の文章の後でつながりがよくなるように思います。いかがでしょうか。
- **清家会長**：主旨は良く分かりました。そうしましたら、この部分の表現ぶりについては、私と事務局にお任せいただけますでしょうか。点検の内容を客観的に記述する必要があるという一方で、表現を統一するという視点もございますので、お任せいただければと思います。よろしいでしょうか。
- **関委員**：はい。
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは丸山委員、お願いします。
- **丸山委員**：SDGsの関係ですが、かながわグランドデザインと持続可能な開発目標との関係ということで、156ページ以降に一覧表があります。神奈川県は率先して取り組むと表明されているし、また、報告書にこのように表すのはとても良いことだと思います。中身についても意見というよりも、こうした方がもっと良くなるのではということであえて発言させていただくと、この表は間接的に関連するものは外して、直接的に関連するものを調査したということですが、基本的にSDGsとの関係というのは1つではなく、複数のものが重なり合っている部分がすごく多いように思います。そうしたときに、関連があるということであちこちに○がついているよりも、特に重点、関係性が深いところについて、○印ではなく◎にするなどの工夫をすることによって、県民にも持続可能な開発目標が神奈川県の取り組みだということがわかりやすくなるのではないのでしょうか。なぜかと申し上げますと、先ほど渡辺委員からもご発言がありましたが、神奈川県ひいては日本社会が曲がり角に差し掛かっている中で、持続可能な開発目標というのは大きな切り口であるように思うからです。ですから、そのあたり意識していくためにも、丁寧にやっていくことが大事であるように思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。丸山委員のご指摘は、大変重要なご指摘で、全部○がついている中で、どのあたりが主になるかということは、「確かにそうだな」ということで伺いました。ただ一方で、どれが重要であるか、また◎にするということは、それについて具体的に評価しなければならないし、また、逆に◎が付いていないものは、他より低いのか、というように見えるところがあるかと思います。そ

の点については、今後、丸山委員の重要なご指摘を踏まえて、そのようなことが出来るのか評価部会でも研究させていただきながら、今回は間に合わないかと思いますが、今後の課題として少し頭に置いて議論できたらよいかと考えています。

- **丸山委員**：それでよいかと思えます。ただし、イメージでいうと、例えばまちづくりの協働連携は、17番しか付いていません。パートナーシップという部分でいうと、17番かと思えますが、もう少し関連しているところがあるのではないかと思います。重点は17番かと思えますが、今回はこれでよいかと思えますし、いろいろ関係があるというマトリックスの中で理解はできますが、今後の曲がり角の神奈川の中で、こういう様な考え方を大切に、広めかつ実践をしていくために、どのような表現をした方がよいか考えていただきたいと思えます。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。SDG sについては、今回盛り込んでいこうということで、たくさんのご意見をいただき、先日の部会でも「この表でよいか」、逆に「多すぎるのではないか」などの意見をいただきましたが、そうした中で今回重要な問題としてSDG sの視点を入れていくということで、盛り込んでいただき、表も入れていただいたので、確かにご指摘いただいた協働連携については、ここを◎にして、あとは○にするなど、いろいろな工夫は今後考えられるので、ぜひ参考にさせていただき、議論させていただければと思います。ありがとうございます。
- **清家会長**：これは、以前からここでも議論していますが、私の理解は、基本的には主体は神奈川県プロジェクトがあり、それが国連の定めたSDG sとどのような関わりがあるのかということを示しているという理解でいるので、あくまでも主体は私たちのプロジェクトであり、SDG sから派生して私たちの政策が作られているわけではないということは、押さえていた方がよいかと思えます。ですので、牛山部会長が言われたような整理で、もう少し工夫ができるのであれば、工夫させていただくということでよろしいでしょう。
- **柏木委員**：就職について、いわゆる「不本意ながらの非正規雇用」について、記載いただきありがとうございます。14ページの文章の最後の行の263万人という数値は、国の数かと思えますが、神奈川に落とし込んだ数値は無いという理解でよろしいでしょうか。もう一点は、いずれにしても首都圏、東京圏はこの数が非常に多いというのが事実だと思えますが、それに対して、105ページの「今後に向けた検討事項」の就業支援の1つ目の「○」について、毎年度評価を行っていくので現時点ではこれで良いのかもかもしれませんが、おそらく25年後に、ものすごいリバウンドになって神奈川県を襲ってくるという危機感があります。それに対して妙案は私自身も持ちあわせていませんが、これからローリングを掛けていく中で、深堀していかないと立ち行かなくなるだろうと思えます。国の言う生活保護受給者216万人と同じぐらいの不本意非正規の人がいるわけです。もっと言うと、1千万人のロスジェネが居て、その4割が非正規と言われています。その方が高齢化した時の日本社会はたぶん持ちこたえられないのではないかと危機感を持っていますので、何回かのローリングの中で、力を入れて行った方がよいと思えます。国もそうですが、人が多いところは歪みが大きいです。
- **清家会長**：ありがとうございます。事務局から何かお答えございますか。
- **池田総合政策課長**：数字については国の数値を記載しているところですが、県の数値を把握できるようにあれば記載していきたいと思えます。後段のお話ですが、今後の政策運営に当たりましては、そのような視点が重要となってくるということについて、雇用の関係部局とも情報を共有して今後の参考とさせていただきます。

- **清家会長**：ありがとうございました。柏木委員が言われたことの1つは、いわゆる2040年問題と言いますか、2040年頃に団塊ジュニアの人達が皆高齢者になるので、この世代は特に非正規の比率が高いので、この人たちが貧しいまま高齢化すると、その後の負担が大きくなりますので、今が最後のチャンスと言いますか、この団塊ジュニアで比較的大きい非正規の人たちを正規化していくということが、国の雇用政策の中で一番重要なのかと思います。県でも一緒になって取り組んでいくことへの重要性についてのご指摘かと思います。他に質問ありますでしょうか。田中委員どうぞ。
- **田中委員**：柏木委員と会長からお話がありましたロスジェネ世代です。なかなかご理解いただけない中で、そのようなご意見をいただきありがとうございます。我々は就職活動が大変厳しかった。社会保障の話をするれば、25年後ぐらいには社会からお荷物扱いされるのではないかと懸念しています。そのような中、一番今取り組んでいただかないと困る問題は出産関係です。40代前後で、出産するには高齢となっっています。産まれにくい年代になっています。少し景気が良くなって雇用が安定したから、この間に子どもをと考えているカップルもいますが、そう簡単にできるというものでもありません。ここ2、3年がラストチャンスかと思いますので、補助のようなものを短期的にも認めていただけるとありがたいです。全体の中で、出産に関しての政策が薄いという印象もあります。神奈川県内で、例えば出産に関する病院の環境の差が非常に大きいと思っています。データ上は、例えば、家から出産、陣痛ということになると30、40分でも間に合うのですけれども、私も昨年立ち合い出産を経験して、私は横浜ですので、車で10分で着くという大変良い環境に住んでいるのですが、それでも妻に聞けば1分が1年のように長かったということでした。今日は、秦野の神倉委員も来ておりますけれども、彼がよく県議会で質問するのが、秦野では出産のときに病院まで40分かかるといことなのですが、そのときの妊婦さんの不安はどれほどのものかと想像に絶するところがあるように思います。こうしたところで、ぜひ少子化対策として、子どもを産む環境に関して、ぜひ厚めをお願いしたいという要望でございます。ありがとうございました。
- **池田総合政策課長**：出産に関しては、様々な工夫があると思います。具体的には、例えばこれは市町村の役割かもしれませんが、出産に対するお祝い金のようなものが出ているという状況はございます。県の役割としては、今お話いただいたように病院の環境について、なかなか産科医の成り手がいないということで、医師の不足、特に産科医不足がここ数年言われているところですので、そのことに対する支援として様々な工夫をしているところでございます。そうした工夫をすることによって、産科医を標榜していただく方を増やしていけるよう、医師確保のための奨学金や寄附講座などの施策をしておりますので、そうした中で医者になっていただく、産科医を標榜していただく方を増やしていくことを医療施策の点で取り組んでいる部分もでございます。また、小児救命救急のようなお話でございますが、MFICU（母体胎児集中治療室）や子どものICUなどの整備に対する補助などもしているところでございますので、そういった広い意味での環境整備を今後も進めていく必要があるものと考えているところでございます。
- **清家会長**：はい。ありがとうございます。他にご意見よろしいでしょうか。
- **金子委員**：数字的にみて、少し不自然に感じる場所がありましたので、お伺いしたいと思います。まず、19ページですが、2016、2017年度あたりから「いじめの認知件数の推移」や「県内の児童相談所における児童虐待相談受付件数」が跳ね上がっています。それに対して、89ページの「児童相談所が受け付けた児童虐待相談のうち、一時保護を必要とした子どもの割合」の目標値自体が漸減しています。それから里親その他は多少増えていますが、それ以前の15年までの数字の推移に基づいて、惰性で目標値が設定され、2016年はそういう数字になっています。2017年、2018年は非常に増えていて、掴みにくいネットいじめで複雑だと書いてありますが、掴みにくくなっているのか、相談件数の中身が増えているか、中身がどう違うのかがわかりにくいです。もしかしたら、目標値の立て方そのものが正しいかどうかについては、

関心がある人が読むと違和感あります。まとめの数字の急激な伸びと目標値にずれ感があるので、どのように説明されるのが1点です。もう1点は、実は、農林水産業の14ページの担い手の説明で、2010年から2015年までに28,000人から24,000人で年平均すると700人弱。65歳以上は57.4%なので、更にこれが加速すると思われませんが、これの73ページの目標値は、年間新規修了者が120人から若干増えている150ということは、700人減って150人増えると辻褄が合わなくなっています。おそらく、就農者に人数と耕作の面積を掛け合わせないとうまく説明がつかないので、耕作放棄地を含めて、農業をどうしたらいいのかが良く見えてこないです。これが見た人の率直な印象だと思う。どうしろということではないが、急激な変化が起きていることと、目標値の置き方にきちんと整合的な説明がなされないという丁寧ではないかなという印象を受けました。

- **清家会長**：この点について事務局から何かありますか。少し精査してからにしますか。
- **池田総合政策課長**：少し精査をさせて頂きたいと思います。いじめの認知件数が増えているのは、こういったものが増えるのがいいのか。児童虐待は潜在的なものが多いと言われてます。いじめの認知件数が多い方がいいというのは色々な意見があります。目標数値と実際の数値との差については精査をさせていただきたいです。今後の目標数値の置き方については、いただいたご意見を参考にしていきたいと考えています。ただ、農林水産業の新規就農者については減っていく数に見合った数字をおけない状況が現実にあると聞いています。その辺りをどうしていくのかを今後の政策の中で検討していくことなのかと考えています。例えば、県内畜産業については、かなり高齢化が進んでおり、小規模でやられていて、事業継承が進んでいかないというのは課題だと認識しています。また、農業についても高齢化が進んでいるのは大きな問題と考えています。今後取り組んでいかなければならないという課題認識が持っているところで、こういったところの施策を進めていきたいと思っています。
- **清家会長**：ありがとうございました。
- **中谷政策部長**：一点補足説明をさせていただきますと、いじめの方は、19ページをご覧いただくと、認知件数が2016年度から2017年度にかけて、急激に増えています。当時、いじめの大きな事件があるなどの社会的な背景があって、いじめの認知に関する考え方を国が詳細に示して、学校も積極的に認知するようになったことも認知件数の大幅な増加につながったと思います。それをもって増えたとは限りませんが、そうした背景も記載していますことも補足させていただきます。
- **清家会長**：ありがとうございました。他にご意見いかがでしょうか。清水委員どうぞ。
- **清水委員**：先程の農業のところですか。後継者不足については全国的な問題ではありますが、一方で兼業農家や週末農業は思い切ってリタイアしてもらい、農地中間管理機構を通して農地の規模拡大をしてもらいたいという意向もあります。食料と農業は農村で一括りになっていて、農業自体はスマート農業などで対応が可能ですが、農村をどうしていくのかというと、やはり人が必要となります。規模拡大と農業はスマート農業で守れますので、県では、スマート農業や農村としての多面的な機能について、どのエリアで行っていくのか、きめ細かな農業政策を考えられていくと良いと思います。農業就業者がいないことだけを悲観するのではなく、企業参入もあると思いますので、前向きな農業のあり方を描いてはどうかという感想です。
- **清家会長**：ご意見ということでよろしいでしょうか。先程、牛山部会長が言われた農業と環境によるクロスと言いますか、少し立体的に考えることも大切だと思います。ありがとうございます。他によろしいでしょうか。平田委員どうぞ。

- **平田委員**：104ページの就業支援のところ、神奈川県女性の就業が、全体として改善傾向にありますが、M字の底の値と深さが全国最下位とあります。東京都と比較すると、神奈川県は子育て支援がまだまだということで、皆さん、神奈川県には住みたいけれども、東京都内や23区内を選択すると聞いています。なんとなく改善されているということだけではなく、是非子育て支援の方も積極的に行っていただきたい。子育て支援について、神奈川県の場合、ボランティアの方に頼るところが結構多いです。例えば、ファミリーサポートなどということも、有償ボランティアの方に見てもらおうということになっており、この有償ボランティアの方を探すのが困難な状況という実態があります。こうしたボランティアのことも含めて、子育て支援や地域の福祉を支える人材をどのように育てていくのか、是非、市町村のレベルでも検討していただきたいと思います。
- **清家会長**：ご要望、ご意見ということでよろしかったでしょうか。ありがとうございます。
- **斎藤副会長**：全般的なことですが、言葉というのは生きているものなので、時代によって変わってくるのでしょけれども、なるべく多くの方が、若い方からお年を召した方まで、理解できるようにとなると、ある程度こなれた言葉を使う方がよいと思います。最後のところにまとめをしていただいて、大変わかりやすくてよいと思うのですが、例えば、EBPMというのが、今一般に使われているのか、一般に理解されているのかという、私はまだのような気がします。最近出てきた言葉をここで使ってしまうのかというものが少し気になりました。ICTというのは、だいぶ一般的に受け入れられているようには思いますが、それもどうなのか。そのあたりの一般的に受け入れられている度合いという観点から、もう一度言葉を精査していただけたらと思います。
- **清家会長**：ありがとうございます。例えば、証拠に基づく政策立案、あえてEBPMと書く必要があるかどうか。あるいは、ICTと言わずに、情報通信などといった言い方があるかどうか、少し工夫をしていただいて。副会長の趣旨はよくわかりましたので、要望については、ご一任いただければと思います。私もわざわざ理解しにくい言葉を入れる必要はないと思いますので、我々だけが知っている言葉がここに出てこないように、もう一度文章を事務局においても精査していただいて、牛山部会長と私の方で責任をもって修正させていただきますので、よろしくお願ひします。
- **牛山部会長**：部会でもEBPMってどうなんだとか、証拠に基づく政策立案を導入するという点について、これまでは証拠に基づいていないのかなどといった、様々な意見が部会でも出されまして、逆にいうと、詳しく説明する形で文章を加えていったという経過があります。EBPMをどうかといった点については、私は行政学の分野なので、国の方でもこれを入れていかなければならないのではないかとということで研究がされているなどといった意味で、そういった文脈の中で、EBPMというのを神奈川県でも考えますといった意味合いになっているかと思ひます。その意味で、会長や事務局とも相談させていただきながら、EBPMと書くのがよいのか、違う言い方ができるのか、政府の動き等も含めて検討させていただきたいと思ひます。
- **清家会長**：ありがとうございます。他にご意見はないでしょうか。ないようでしたら、ご議論になったところも含めて、事務局において文章を修正していただくということで、本日の点検報告書（案）について、基本的に了承ということにさせていただいてよろしいでしょうか。
- **一同**：（異議なし）
- **清家会長**：ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。本日の議題は以上でござ

います。事務局から何かございますか。

○ **楯岡政策局長**：政策局長の楯岡でございます。本日は、大変に熱心なご議論をいただき、誠にありがとうございました。大切なお提案をいただいたと思っております。特にロスジェネレーション世代の雇用対策や出産環境づくりなどの課題や、SDGsにしっかりと取り組んでいくことなどに対して貴重なご意見ご提案をいただきました。我々としては、これをしっかりと受け止めて、この点検報告書を基に今後の政策運営に活かしていきます。今後、人口減少や高齢化が確実に進展していく中で、これからの行政の在り方についても見直し、効率的に進めていく必要があると強く認識しております。そのためには県が広域自治体として責任を持って取組みを進めていきますが、県と市町村がタッグを組んで連携しながら進めていきたいと考えております。本日ご審議いただいた「かながわグランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」につきましては、今後、県議会に報告し、最終的に県としてとりまとめまして、3月下旬を目途に県民の皆様公表してまいります。本日のご議論やこれまでの部会、審議会などを通じて、たくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございました。また、市町村や県民のみなさまからも、今回138件もの多くのご意見を頂戴しましたので、こちらについてもしっかりと受け止めさせていただきたいと思っております。本県をとりまく状況は、今後、本格的な人口減少や高齢化による社会構造の変化など、多くの課題を抱えております。しかし、これらを悲観的に捉えるのではなく、前向きに捉え、どう乗り越えていくのかを県民のみなさまと一緒に進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○ **清家会長**：ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、本日の審議会を閉会いたします。みなさま、どうもありがとうございました。